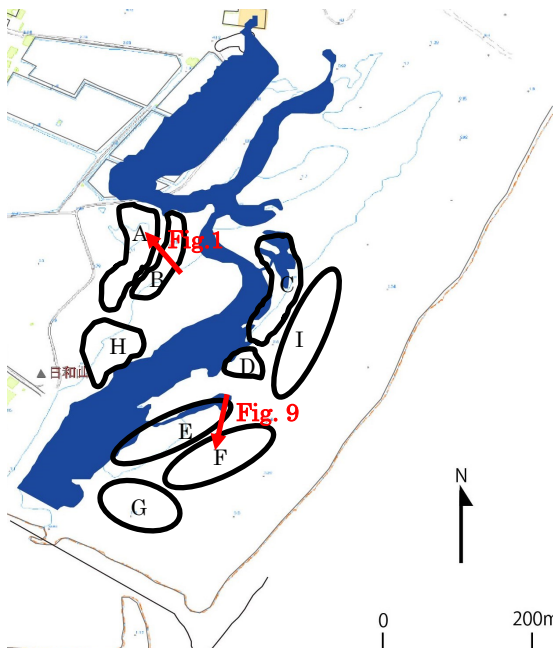


蒲生干潟の植物⑥



2020/09/17 調査エリア



Fig.1 エリアAを南東側から撮影



Fig.2 エリアAで撮影



Fig.3 エリアIで撮影



Fig.4

Fig.5

調査日時：2020年9月17日（木）9:30～11:00，天気：晴れ

一週間ほどぐずついた天気が続いたせいか、潟湖に近いエリア（エリアH,C,D,E）では、全体的に水分を多く含んだ土壌の状態であった。エリアAを南東方面から見ると、ヨシの先端付近が赤く色づいている様子が見られた（Fig.1）。先月はまっすぐ上を向いて咲いていた花は、扇を開いたように広がって咲いていた（Fig.2）。

エリアIやエリアFでは、枯れたコウボウムギの茶色とハマニガナの花の黄色が目立つ（Fig.3, 4, 5）。今回の調査では、ハマニガナの花が多く見られ、開花時期が他の花と比べ長いことを実感する。今年度の調査では5月の調査から開花が認められていた。（蒲生調査レポートNo.217）。

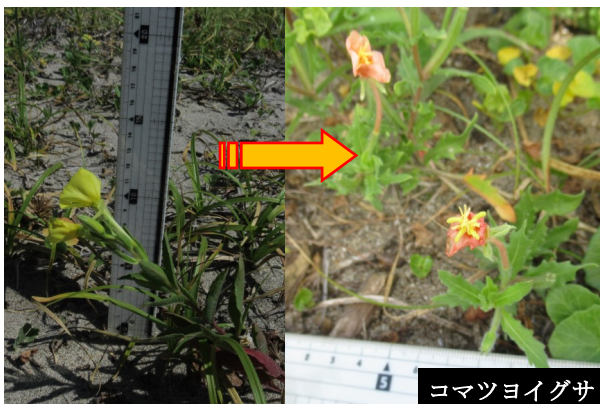


Fig.6 エリアIで8.20撮影 Fig.7 エリアIで撮影

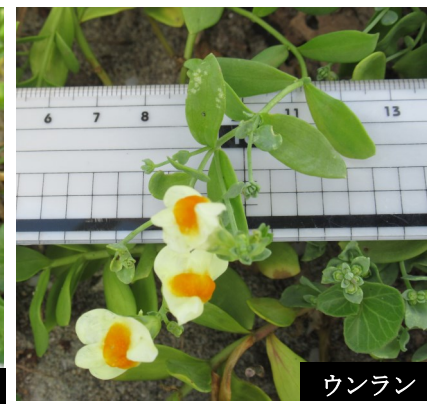


Fig.8 エリアFで撮影



Fig.9 エリアE,Fを北側から撮影

先月までは黄色い花を咲かせていたコマツヨイグサは、しぼんで花卉の色が赤くなっていた（Fig.7）。エリアFでは、数株ではあるが、ウンランが花を咲かせていた（Fig.8）。日本名のウンランは海蘭の意味であろうと言われているが、ラン科ではなく、オオバコ科である。

今回の調査時刻が干潮時であったこともあり、エリアEとFの境に漂流物が目立っていた。この漂流物を境に、土壌の状態と植生が大きく違うことを確認できた（Fig.9）。

（丹野美紀）